

いわきおてんと SUN プロジェクト

【プロジェクトの概要】

2011年12月3日、第2回車座・交流会&「未来のエネルギーを考えるシンポジウム」での討論から誕生したプロジェクト。東日本大震災、原発事故により大きな被害を受けた福島県いわきだからできること、しなければならないこと。いわきの明日、持続可能な未来に向けて、震災前より、福島県いわき市を拠点に地域づくり活動を行ってきた3つのNPOが中心となり、企画を立案。独自の復興活動を行いながらも、復興への思いやいわきのビジョンを共有し、いわき市民自らが、市民のために行う地域づくりを協働し、実践していくために、コンソーシアムを形成し、「いわきおてんとSUNプロジェクト」を推進。地域住民、避難移住者、農家、事業者、地域づくり団体、NPO、首都圏企業、ボランティア、そして自治体など、様々な人と人の輪をつなぎながら、

① オーガニックコットン栽培および製品づくり ② いわきコミュニティ電力(自然エネルギー) ③ 復興スタディツアーに取り組んでいる。



オーガニックコットン

フクシマの新しい産業の創出

福島、いわきの農業の復興・再生に向けて、今春より、市内15箇所、1.5haでコットンの有機栽培が始まりました。初めてのコットン栽培に、地元農家やNPOなどが汗を流しています。多くのボランティアが首都圏から訪れ、栽培の支援を行っています。

このコットンを、今年11月に収穫し、来年6月にはTシャツなどの製品化を行う予定です。オーガニックコットンが、福島の新たな産業になることを目標としています。



コミュニティ電力

市民が主役の自然エネルギー活用

地域再生には、市民自らが自然エネルギーを活用し、新たないわきの産業へと発展させることが必要と考えます。現在、いわき市でも自然エネルギー導入の動きが見られますが、その多くは外部資本によるものです。

自然エネルギーの宝庫と言われるいわきにて、地域に希望の明りを灯す「いわきコミュニティ電力」事業の実現に向けて、体制やしくみを構築していきます。まずは、30kWの太陽光発電事業に着手する予定で、今後さらに取り組みを拡大させていきます。



スタディツアー

被災地・いわきから学び、考える

被災現場において被災者自身から発せられる言葉。そこから震災の教訓を学び、自分たちができることを見出していく。被災地のいまの姿を目に焼き付け、震災を機に生まれた新たな試みを体感する。被災地・いわきから学び、考えるツアーをスタートしました。

被災地支援に関心がある企業や団体に訪問いただき、津波被災地の視察、語り部の講話、コットンなど復興への新しい試みを体験するプログラムを提供していきます。



2013年2月には法人格(企業組合)を取得。様々な団体や人との連携を深め、より大きな人の輪に広がっている。

